

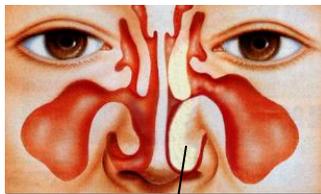
アレルギー性鼻炎 花粉症

END 細田耳鼻科 EAR CLINIC

URL : <http://www.hosoda-cl.com/>
E-Mail : y-hosoda@mtd.biglobe.ne.jp

アレルギー性鼻炎とは

アレルギーとは体内に入った異物（抗原）に対して、過剰反応する体質のことです。また、抗原が血液検査で特定できない血管運動性鼻炎（鼻過敏症）があり、温度変化や機械的刺激、精神的因子などでもアレルギー症状が誘発されることがあります。副鼻腔炎は細菌感染であり違う病気ですが、アレルギー性鼻炎により副鼻腔炎が誘発されることがあります。



アレルギーで腫脹した下鼻甲介

正常の鼻

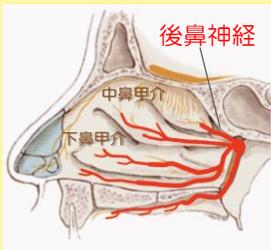


正常な下鼻甲介



下鼻甲介（かびこうかい）
鼻の中には棚のように飛び出した上中下の3つの鼻甲介があります。このうち最も強くアレルギー反応が起こるのが下鼻甲介です。通常の数倍以上に腫脹することがあり、鼻づまりの原因になります。鼻水もこの部位から分泌されます。

後鼻神経



アレルギーの鼻



アレルギーで腫脹した下鼻甲介



季節性アレルギー（花粉症）

季節限定的な症状に対しては内服薬や点鼻薬が主体となり、この場合、症状の抑えられる最小の薬剤量を使用します。一日一回の服用ですむ薬、眠気を押さえた薬、即効性のある薬、局所だけに作用する点鼻薬、点眼液などを適時組み合わせて症状をコントロールします。

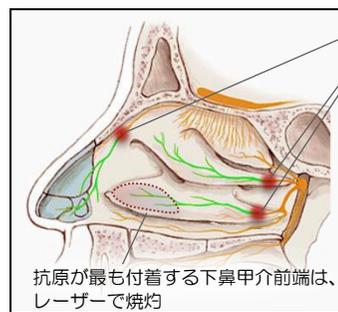
通年性アレルギー 血管運動性鼻炎

通年性アレルギーや血管運動性鼻炎（鼻過敏症）に対して、また季節性アレルギーでも薬が効かない人、薬を避けたい人などに対して、日帰り手術を勧めています。

当院で改良された手術的治療

ピンポイント 鼻腔粘膜焼灼術（一般的通年性アレルギーに対して行う）

高周波バイポーラシステム（CelonENT）と炭酸ガスレーザー（Lezawin II）の長所を組み合わせる下鼻甲介粘膜の焼灼を行っています。●手術+薬剤費：約9.5千円



抗原が最も付着する下鼻甲介前端は、レーザーで焼灼

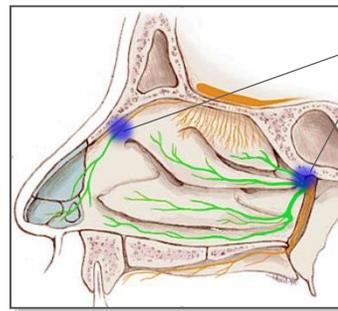
高周波凝固装置を用いて後鼻神経の末梢側をピンポイント遮断
遠位側は神経活動が停止する（みどり色の神経）

- ・高いアレルギー症状 抑制効果
 - ・嗅神経（嗅覚）には影響しない
 - ・粘膜の傷の範囲が非常に少なく、治癒が早い
 - ・抗原が最も付着する下鼻甲介前端は、レーザーで焼灼
- ◎レーザー単独よりも再発が非常に少ない

20分程度の施術で終了し、痛みは少なく嗅覚にも影響しません。焼灼後1～2週間は粘膜の腫れによる鼻づまりが生じます。また10～20代の若い方やアレルギー体質の強い方などでは、アレルギー粘膜が再生しやすく、鼻炎が再発することがあります。この場合、追加焼灼します。

凍結法を用いた 後鼻神経切断術（難治性の高度アレルギーに対して行う）

レーザー手術などが無効の重症例に対して行います。鼻水の8割、くしゃみの3～5割に後鼻神経が関与しており、これを切除します。鼻中隔彎曲に対する鼻中隔矯正術と組み合わせて行います。重症例でも9割の方に効果が認められています。
●手術+薬剤費：高額療養費制度の適応により、所得にもよりますが、約10万円以下です。



後鼻神経本幹を露出したのち、凍結装置（-70度に冷却：クライオサージェリー）を用いて神経活動を遮断する

- ・高度のアレルギーに対して、より広範囲に神経遮断を行う
 - ・神経に伴走する血管は温存され、術後出血の危険性も少ない
 - ・血流が温存され、鼻の加温加湿機能を保てる
- 同時に鼻中隔彎曲症矯正術も行います。

鼻の大切な機能（フィルター効果 加温加湿機能）

鼻腔内に突出する構造物（上、中、下鼻甲介）は、空気との接触面積を増やして、加温加湿やフィルターとして働きます。必要以上に通りすぎる鼻（empty nose）になると、これらの機能が失われ、慢性的な咽頭炎や違和感の原因となります。当院では以前より加温加湿機能の研究を行い、適度な鼻腔通気性の確保を考えた手術を行っています。

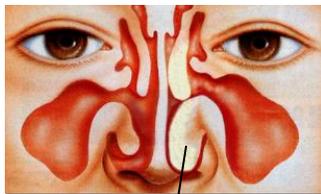
アレルギー性鼻炎 花粉症

END 細田耳鼻科 EAR CLINIC

URL : <http://www.hosoda-cl.com/>
E-Mail : y-hosoda@mtd.biglobe.ne.jp

アレルギー性鼻炎とは

アレルギーとは体内に入った異物（抗原）に対して、過剰反応する体質のことです。また、抗原が血液検査で特定できない血管運動性鼻炎（鼻過敏症）があり、温度変化や機械的刺激、精神的因子などでもアレルギー症状が誘発されることがあります。副鼻腔炎は細菌感染であり違う病気ですが、アレルギー性鼻炎により副鼻腔炎が誘発されることがあります。



アレルギーで腫脹した下鼻甲介

正常の鼻

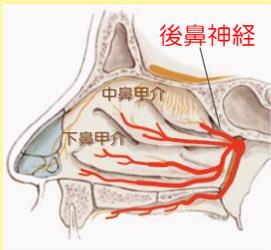


正常な下鼻甲介



下鼻甲介（かびこうかい）
鼻の中には棚のように飛び出した上中下の3つの鼻甲介があります。このうち最も強くアレルギー反応が起こるのが下鼻甲介です。通常の倍以上に腫脹することがあり、鼻づまりの原因になります。鼻水もこの部位から分泌されます。

後鼻神経



アレルギーの鼻



アレルギーで腫脹した下鼻甲介



季節性アレルギー（花粉症）

季節限定的な症状に対しては内服薬や点鼻薬が主体となり、この場合、症状の抑えられる最小の薬剤量を使用します。一日一回の服用ですむ薬、眠気を押さえた薬、即効性のある薬、局所だけに作用する点鼻薬、点眼液などを適時組み合わせて症状をコントロールします。

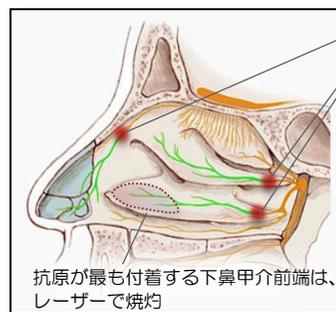
通年性アレルギー 血管運動性鼻炎

通年性アレルギーや血管運動性鼻炎（鼻過敏症）に対して、また季節性アレルギーでも薬が効かない人、薬を避けたい人などに対して、日帰り手術を勧めています。

当院で改良された手術的治療

ピンポイント 鼻腔粘膜焼灼術（一般的通年性アレルギーに対して行う）

高周波バイポーラシステム（CelonENT）と炭酸ガスレーザー（Lezawin II）の長所を組み合わせる下鼻甲介粘膜の焼灼を行っています。●手術+薬剤費：約9.5千円



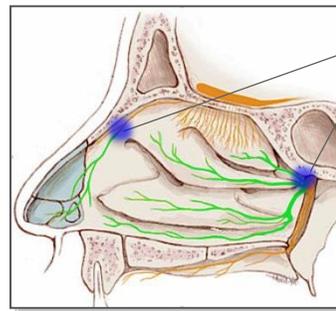
高周波凝固装置を用いて後鼻神経の末梢側をピンポイント遮断
遠位側は神経活動が停止する（みどり色の神経）

- ・高いアレルギー症状 抑制効果
 - ・嗅神経（嗅覚）には影響しない
 - ・粘膜の傷の範囲が非常に少なく、治癒が早い
 - ・抗原が最も付着する下鼻甲介前部は、レーザーで焼灼
- ◎レーザー単独よりも再発が非常に少ない

20分程度の施術で終了し、痛みは少なく嗅覚にも影響しません。焼灼後1～2週間は粘膜の腫れによる鼻づまりが生じます。また10～20代の若い方やアレルギー体質の強い方などでは、アレルギー粘膜が再生しやすく、鼻炎が再発することがあります。この場合、追加焼灼します。

凍結法を用いた 後鼻神経切断術（難治性の高度アレルギーに対して行う）

レーザー手術などが無効の重症例に対して行います。鼻水の8割、くしゃみの3～5割に後鼻神経が関与しており、これを切除します。鼻中隔彎曲に対する鼻中隔矯正術と組み合わせて行います。重症例でも9割の方に効果が認められています。
●手術+薬剤費：高額療養費制度の適用により、所得にもよりますが、約10万円以下です。



後鼻神経本幹を露出したのち、凍結装置（-70度に冷却：クライオサージェリー）を用いて神経活動を遮断する

- ・高度のアレルギーに対して、より広範囲に神経遮断を行う
 - ・神経に伴走する血管は温存され、術後出血の危険性も少ない
 - ・血流が温存され、鼻の加温加湿機能を保てる
- 同時に鼻中隔彎曲症矯正術も行います。

鼻の大切な機能（フィルター効果 加温加湿機能）

鼻腔内に突出する構造物（上、中、下鼻甲介）は、空気との接触面積を増やして、加温加湿やフィルターとして働きます。必要以上に通りすぎる鼻（empty nose）になると、これらの機能が失われ、慢性的な咽頭炎や違和感の原因となります。当院では以前より加温加湿機能の研究を行い、適度な鼻腔通気性の確保を考えた手術を行っています。